

I 計画策定の趣旨と基本事項

悠久の歴史を積み重ねてきた「いちほら」の地には、先人たちによって培われてきた貴重な歴史遺産が数多く残されており、それは、「いちほら」の証であり、アイデンティティの根源となるものです。

このような歴史遺産の価値と魅力を広く市民と共有し、郷土への誇りと愛着を育むとともに、歴史遺産を支える人材の育成や新たな交流の創出につなげるため、「いちほら歴史のミュージアム事業基本計画」を策定し、歴史遺産を核とした事業を展開しようとするものです。

基本理念は

「歴史をつなぐ、人をつなぐ」

歴史をつなぎ、地域の魅力を高めます。
人をつなぎ、地域を活性化します。

➤ 市民の「誇りの創生」に向け、市民との協働による歴史遺産を核とした活動を継続的に行います。

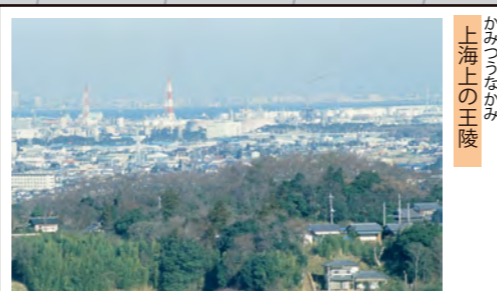
市内に点在する歴史遺産を核とした活動を通じて、地域文化の保存・継承とコミュニティ意識の醸成を図り、「地域の活性化」につなげます。

「いちほら」の未来を担う子どもたちが歴史遺産に親しむ機会を設け、「地域への愛着」を育みます。

➤ 歴史遺産の価値と魅力をわかりやすく伝えるとともに、市民の主体的な活動と交流の拠点となる施設として、「(仮称)いちほら歴史館」の整備を進めます。



いちほらの歴史をつなぐ、かつての生業海苔とりと工業地帯。



全長130m、県指定史跡姉崎天神山古墳は、当時、南関東で最大級の前方後円墳である。



椎津城をつなぐ 椎津カラダミ



地域をつなぐ 里山の道標



鶴峯八幡十二座神楽



国分尼寺

上総国分尼寺跡復元中門・回廊



国分僧寺

上総国分僧寺跡西門 上総国分寺は全国最大級の規模を誇る。 最古の銘文、「王賜」銘鉄剣

歴史をつなぐネットワーク

いちほらの様々な歴史遺産を関連付け、価値と魅力を磨く



菊麻(くくま)の国造たちが眠る一帯。 菊間の地名とともに大規模な古墳群が残されている。



上総国府をつなぐ 柳橋神事



伝説に生きる将門

市内には将門伝説が多い。 市東地区には将門や妻にまつわる伝説が流布している。



近代の夜明け

明治維新期にまちづくりが行われた。 鶴舞小学校には鶴舞城の遺構が残る。



国登録文化財 小湊鐵道駅舎群



もののふの信仰

武士たちは、仏教を精神のよりどころとした。 国指定の西願寺阿弥陀堂は、明応4年(1495)に鎌倉の名人大工によって造られた。

市内に点在する歴史遺産と歴史的特性

II 事業活動計画

市民とともに歴史遺産を探求し、展示や体験学習を通じてその価値を共有することで理解と関心につなげ、地域への誇りと愛着の心を育みます。

市内全域をミュージアムと捉え、地域と拠点施設で行われる活動を双方向的に連携させて、相乗効果を生み出します。

事業活動は5つの大きな柱で構成します。それぞれの活動を相互に連携させ、好循環させることで、「歴史をつなぐ、人をつなぐ」ネットワークを構築します。

各事業活動の構成

歴史をつなぐ <個々の歴史遺産を関連付け、価値を向上>

収集保存事業

いちほらの地域文化を特徴づける、民俗・考古・歴史資料等を収集し、保存・管理します。

調査研究事業

いちほらの歴史文化の成り立ちを解明するため、幅広いテーマで継続的に調査研究を行います。

人をつなぐ <人や地域を結び付け、歴史遺産の価値を共有>

協働調査研究事業

地域住民を主体とし、市民参画を得て、幅広いテーマで継続的に調査研究を行います。

地域連携事業

地域住民が行う調査・普及活動を支援し、情報・意見交換等、地域間をつなぐ活動を行います。

ボランティア育成事業

地域の活動を担う人材を育てるとともに、やりがいや生きがい、交流の機会を創出します。

歴史を活かす <歴史遺産の価値を伝え、取組を通じて絆を深化>

公開展示事業

拠点施設で常設・企画展示を行うほか、現地の歴史遺産もフィールド展示として活用します。

教育普及事業

市民の学習活動を支援するため、展示解説やワークショップ、各種講座・講演会等を開催します。

魅力の発信 <歴史遺産の魅力を広く伝え、地域の魅力を向上>

情報発信事業

情報通信技術（ICT）等を活用し、活動成果やいちほらの歴史遺産の魅力を広く発信します。

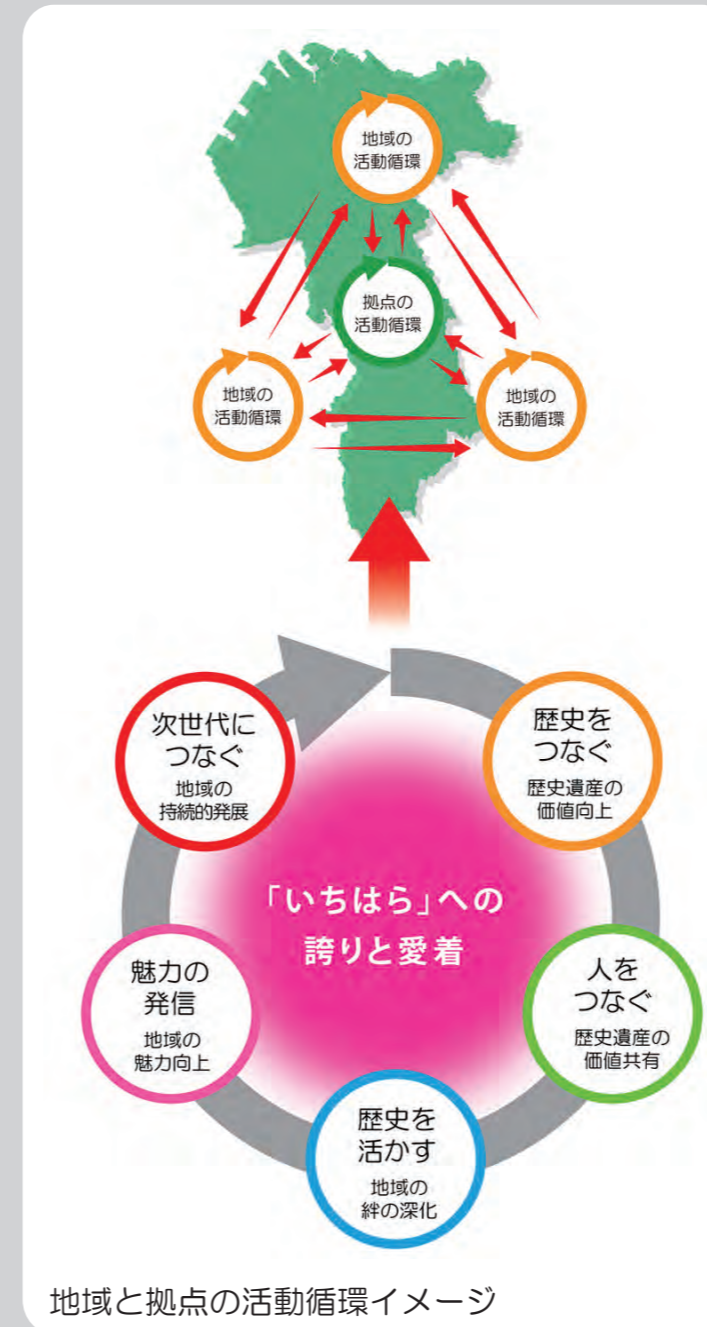
次世代につなぐ <誇りと愛着を育み、地域を持続的に発展>

体験学習事業

参加体験型の学習メニューを取り入れ、子どもたちが楽しく歴史文化に親しむ機会を設けます。

学校連携事業

展示解説や学習活動の支援のほか、学習教材の開発や各種情報の提供、出前授業などを行います。



> 広域連携

調査研究事業や公開展示事業は、共同テーマ等により、近隣自治体と広域的に連携して行うことでネットワークを拡大し、更なる交流の促進を図ります。

【テーマ事例と主な連携先】

貝塚…市川市・船橋市・千葉市・袖ヶ浦市
 里見氏…君津市・大多喜町・館山市
 上総唐箕…君津市・木更津市・袖ヶ浦市

> 情報発信

ウェブサイトやSNS等を活用し、収蔵資料や調査成果等の情報を魅力的に伝えます。また、携帯端末用アプリによる現地の歴史遺産案内と併せて、周辺の観光、イベント、食事処等の情報提供を、庁内連携により行います。

> PR活動

新聞・雑誌・放送等、様々なメディアに向けたPR活動に取り組むほか、歴史遺産巡りや博物館探訪を行うことで、双方向的な交流の拡大につなげ、多くの人に博物館と現地の歴史遺産の魅力を知ってもらう取組を推進します。



市内伝統行事の調査



ボランティア活動と世代間交流



市内小学生の歴史学習

Ⅲ 施設計画

- － 歴史をつなぐネットワークの要、
人をつなぐネットワークの活動・交流拠点 －
「(仮称) いちはら歴史館」

基本方針

「いちはら」の貴重な歴史遺産を後世に確実に継承し、その価値を共有するための展示と体験学習を行うとともに、市民の主体的な活動・交流の拠点となる施設を整備します。

- 多様な世代が集い、繰り返し訪れてもらえるような、開かれた施設として整備します。
- 歴史文化を理解し、興味と関心を高めるため、参加・体験型の学習施設を整備します。
- 貴重な歴史遺産の収蔵・展示に相応しい施設とするため、重要文化財公開承認施設の基準に基づいた整備を行います。
- 周辺に所在する歴史遺産をフィールドミュージアムと捉え、一体的な活用ができるような整備を行います。
- ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが利用しやすい施設として整備します。
- 環境負荷の低減に取り組み、効率的な施設維持管理ができるような整備を行います。

整備予定地の概要

施設整備地の選定に当たっては、① 施設周辺への展開、② コスト意識、③ 公共資産マネジメント推進計画との整合、④ 施設へのアクセス、⑤ 博物館機能の確保という視点から検討を行い、「埋蔵文化財調査センター及びその隣接地」が適地であると判断しました。

埋蔵文化財調査センターは、全国的にも優れた歴史遺産が高密度に分布する地域に位置し、歴史的環境に優れます。また、当該施設をリノベーションすることで、収集保存・調査研究・公開展示・教育普及の機能が一体的に整備され、既存施設に博物館という新たな価値を創出することができます。

周辺環境を活かした取組

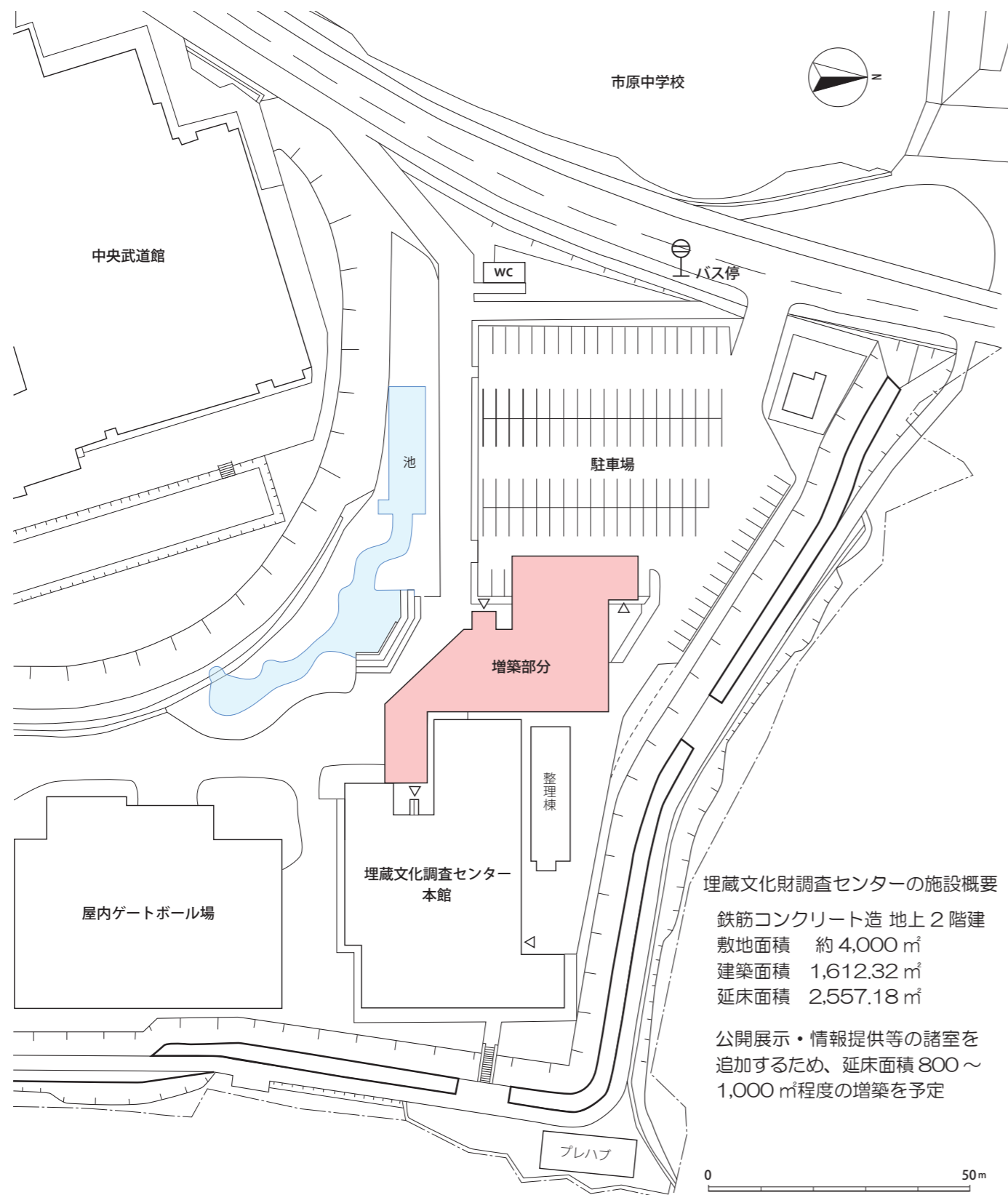
- 全国屈指の歴史体感エリア
施設とその周辺に点在する歴史遺産を一体的に活用し、魅力を発信します。
- タイムトラベルの玄関口
統一された案内サインやアプリ等を活用し、フィールドワークへいざないます。特に復元建物やガイダンス施設が整備される上総国分尼寺跡は、博物館との一体的な活用が有効です。
- 体験プログラムの充実
古代体験のほか、周辺に残る自然環境等を活かして、民具を利用した農業体験等の通年型体験プログラムへ発展させます。子どもや親子向け体験プログラム等の充実により、「千葉こどもの国キッズダム」との連携と回遊を図ります。

交通アクセスへの対応

五井駅から1時間に1便程度のバス路線が運行されていますが、より利便性を高めるための取組を行います。また、周辺道路の整備も進みつつあることから、案内表示等を各所に設置するなど、道路利用者の利便性向上に努めます。



敷地利用計画図



埋蔵文化財調査センターの施設概要

鉄筋コンクリート造 地上2階建
敷地面積 約4,000㎡
建築面積 1,612.32㎡
延床面積 2,557.18㎡

公開展示・情報提供等の諸室を追加するため、延床面積800～1,000㎡程度の増築を予定

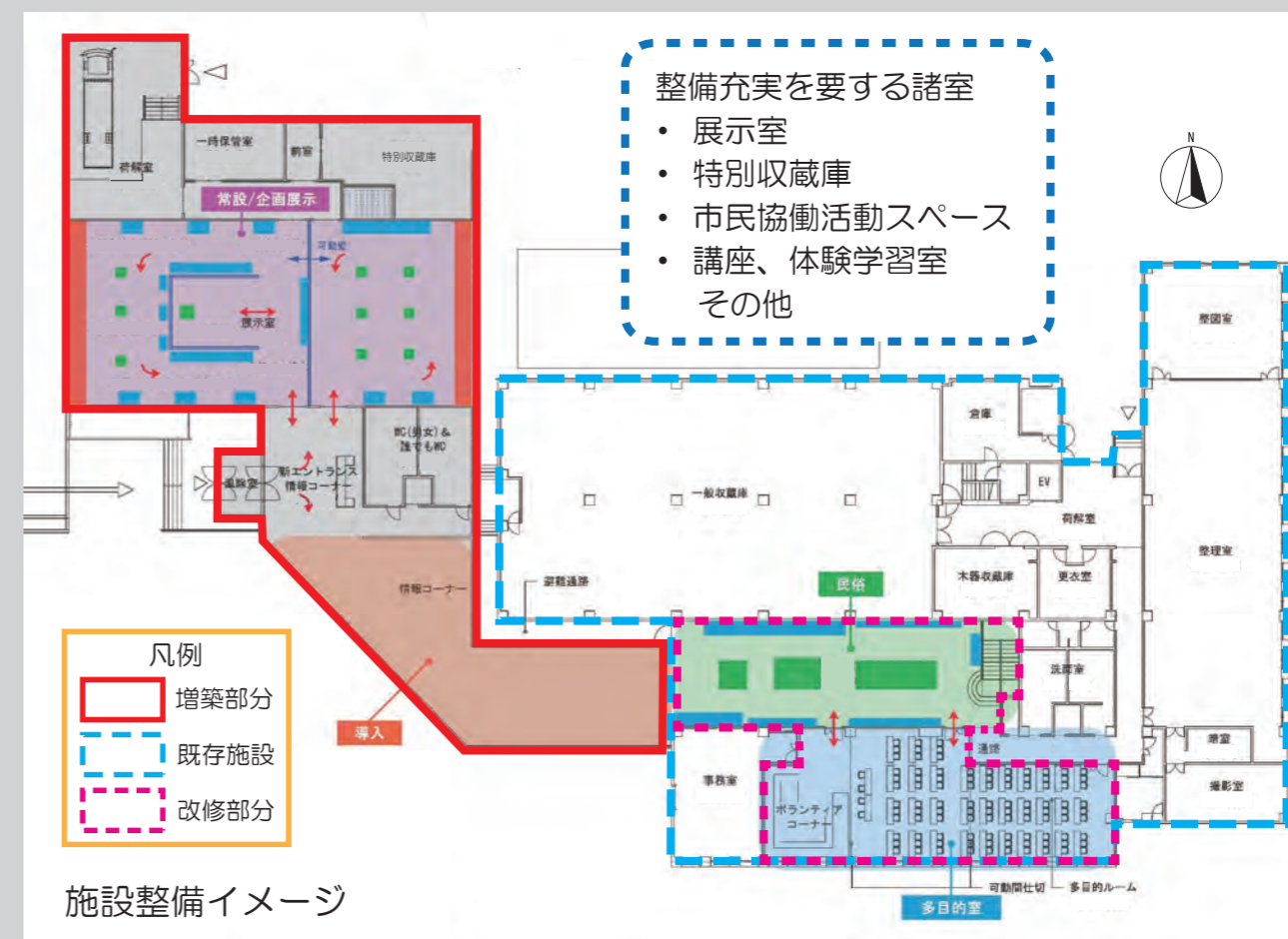


A 上総国分尼寺跡 B 阿須波神社
C 上総国分僧寺跡 D 光善寺
E 埋蔵文化財調査センター

※ アルファベットは、3ページの地図に対応

■ 周辺の主な歴史遺産

- 祇園原貝塚・・・東京湾東岸を代表する大型貝塚
- 神門5号墳（県指定史跡）・・・東日本最古の古墳
- 稻荷台1号墳・・・「王賜」銘鉄剣（国産最古の有銘鉄剣）が出土
- 上総国分僧・尼寺跡（国指定史跡）・・・全国最大級の寺域と史跡整備
- 上総国府推定地・・・古代道が走り、国府関連の伝承が残る最有力地



施設整備イメージ

IV 展示計画

全体テーマは

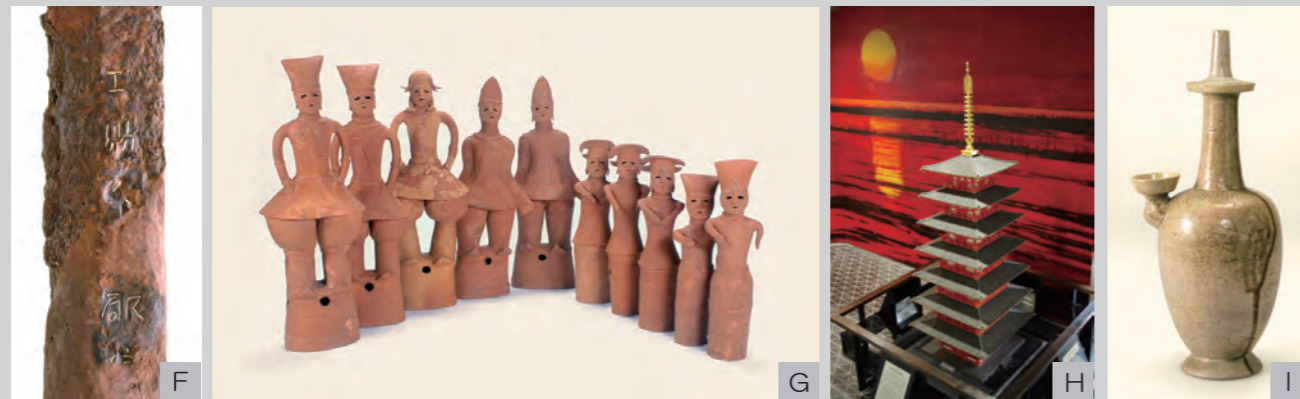
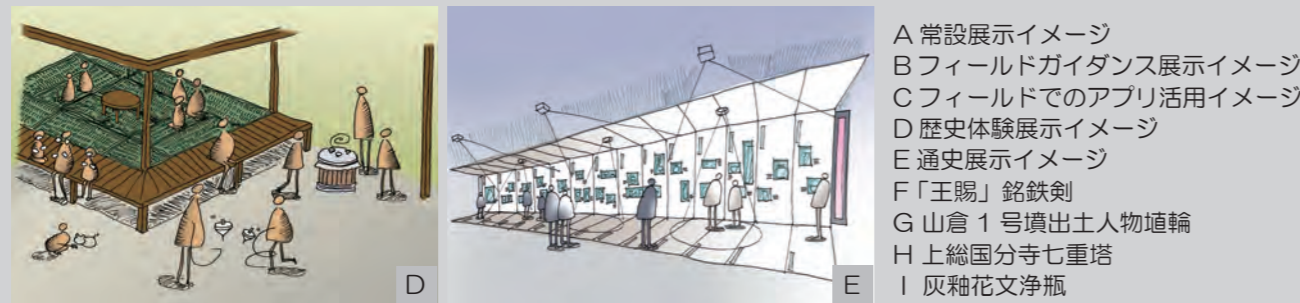
「上総、そして市原へ 一昔と今をつなぐ旅」

市民や来訪者が、国府・国分寺が置かれ、上総国の中心として栄えた「いちはら」の成り立ちや歩みを知り、身近な地域の歴史遺産への興味や関心に結び付けることができるよう、テーマやストーリーに沿って、わかりやすく伝える展示を行います。

展示の構成

展示は、「常設展示」・「企画展示」・「フィールドガイダンス展示」・「市民参画型展示」・「歴史体験展示」で構成します。

既存棟と増築棟を接続するスペースは、導入部と位置づけ、通史展示や情報コーナーとして活用します。

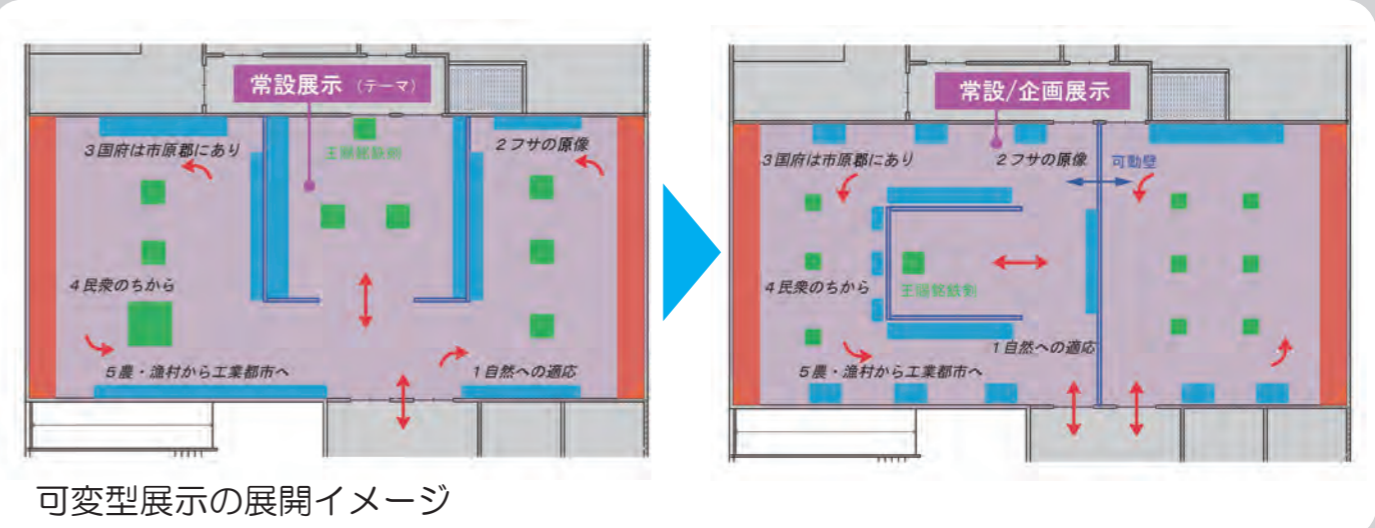
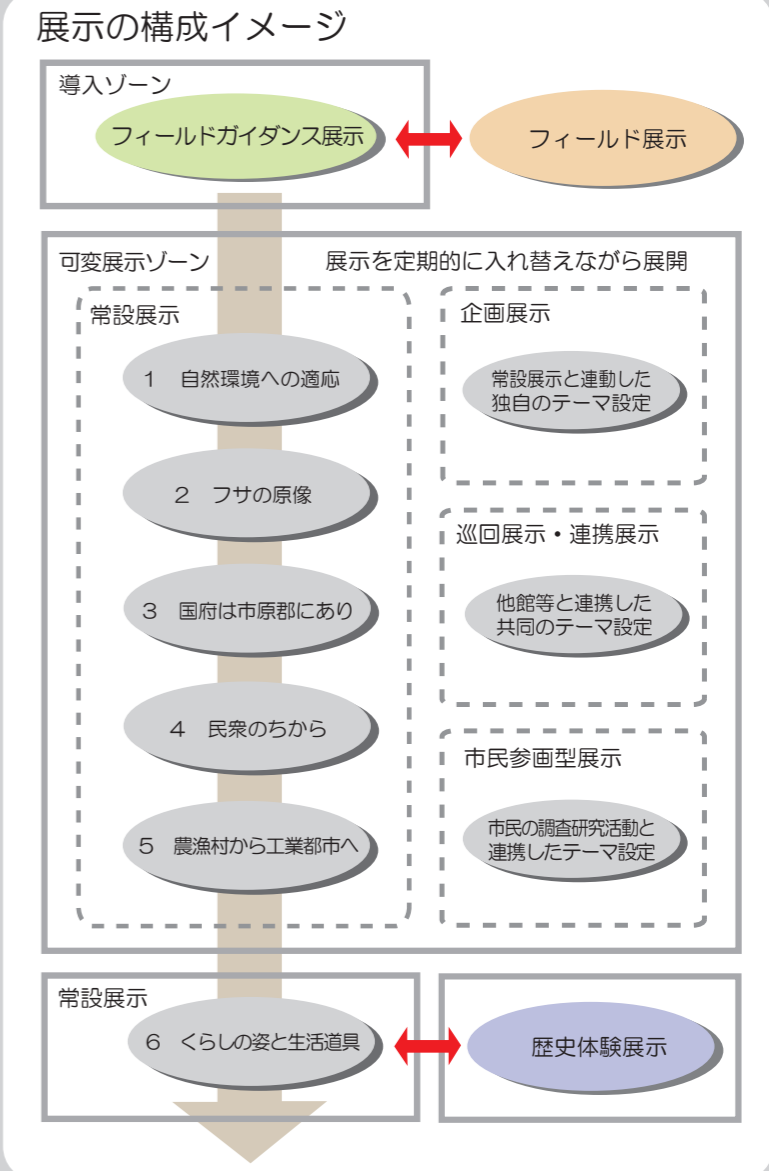


A 常設展示イメージ
B フィールドガイダンス展示イメージ
C フィールドでのアプリ活用イメージ
D 歴史体験展示イメージ
E 通史展示イメージ
F 「王賜」銘鉄剣
G 山倉1号墳出土人物埴輪
H 上総国分寺七重塔
I 灰釉花文浄瓶

- > 「常設展示」
いちはらの歴史の特徴を掘り下げ、新たな発見に出会う展示
- > 「企画展示」
多様なテーマに対応したフレキシブルな展示
- > 「フィールドガイダンス展示」
フィールドへいざなうための展示
現地情報や見学ルート情報を魅力的に紹介。歴史遺産をじかに体感するきっかけをつくる。
- > 「市民参加型展示」
市民が協働・参画・連携して発信する展示
- > 「歴史体験展示」
体験プログラムを交え、歴史を体感するための展示
民具等を活用した各種体験プログラムを充実。隣接する屋内ゲートボール場の活用を検討する。

可変型展示の採用

市民に繰り返し利用してもらい、訪れるたびに新たな情報や発見を提供できるように、可動間仕切りを設定し、可変型の空間構成による展示手法を取り入れます。



管理運営計画

市民に開かれ、市民とともに成長する博物館となるために

「(仮称) いちはら歴史館」は、「いちはら」の過去、現在、そして未来をつなぎます。

博物館の根幹をなす学芸機能や教育普及機能は公益性が極めて高く、事業の継続性が求められることから、市の直営を基本として、広く市民学芸員や市民ボランティアの参画・協力を求めています。

管理運営の方法と体制

様々な事業活動を効率的、かつ効果的に行うため、継続的に施設機能の向上を図り、適宜、必要な職員の配置を行います。

管理運営は、博物館の根幹となる「学芸に関する機能」及び「教育普及に関する機能」、更にこれらを支える「その他の機能」にわけられます。「学芸・教育普及機能」では、ともに博物館を成長させ、博物館活動を支援する市民学芸員や市民ボランティアが積極的に運営に参画してもらう仕組みを整えます。

博物館の活用による学校教育の推進を図るため、博物館と学校をつなぐパイプ役となる博物館活用推進委員会を設置するほか、博物館活動に関する指導・助言や、事業の有効性・効率性等に関する点検・評価を行うための機関として、博物館運営協議会を設置します。

開館形態

➤ 開館日時

資料や施設の維持管理のため、週一日（毎週月曜日等）の休館日を設けます。開館時間は午前9時～午後5時を基本としますが、利用者のニーズを把握しながら、柔軟に対応します。

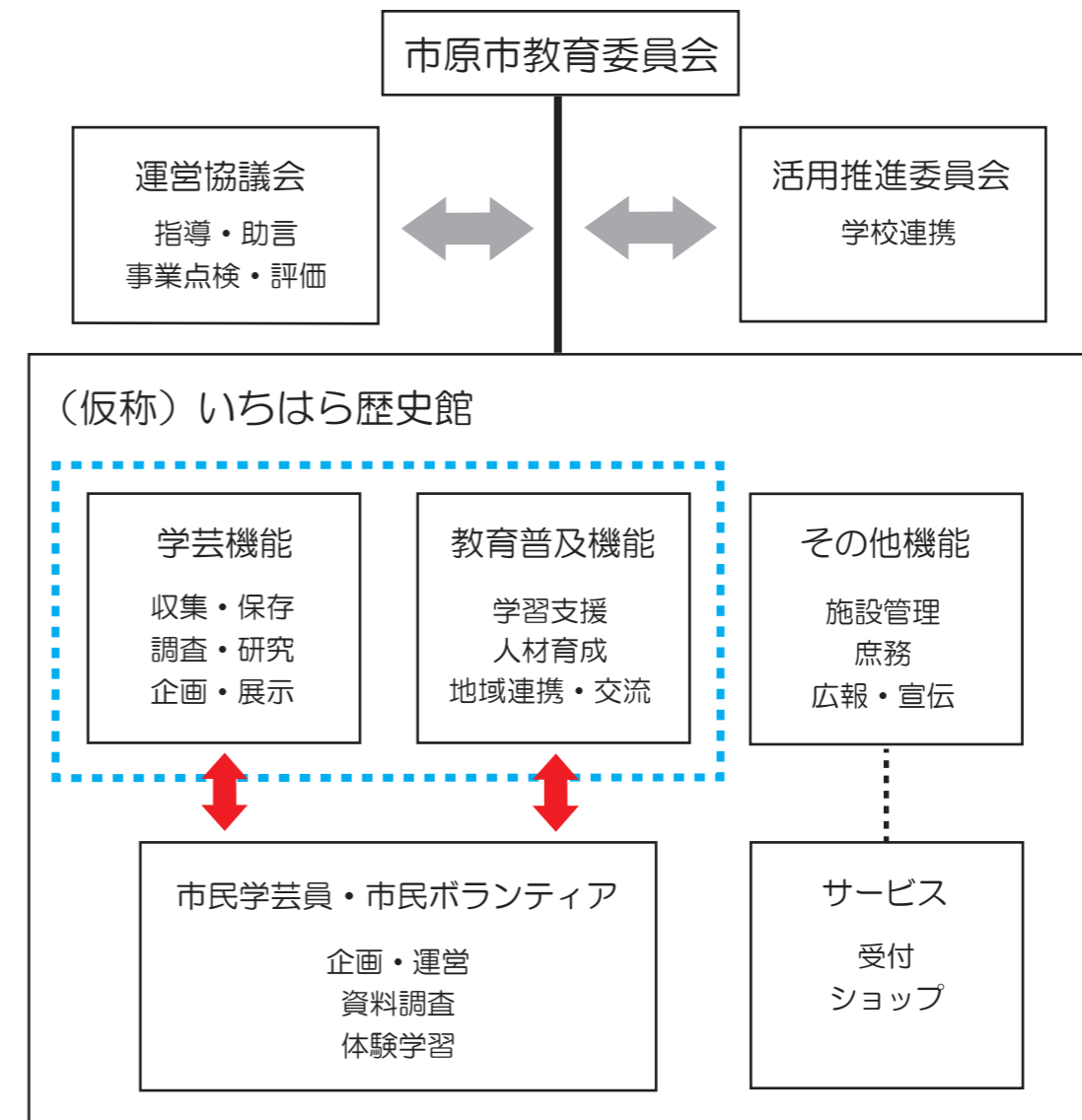
➤ 利用料金

博物館のあり方、周辺自治体の状況及び社会情勢などを考慮しながら、設定します。

利用者目標数

県内の博物館施設の利用状況から、3万人程度と設定します。

管理運営のイメージ



利用者サービス

施設全体にユニバーサルデザインを導入し、全ての人々が安心して利用できる環境を整えます。また、休憩スペースやショップ等、利用者の利便性や快適性を高めるホスピタリティの提供に努めます。

施設内には、統一感を持たせたデザインによる案内表示を行うほか、市内の歴史遺産も共通したデザインを採用し、博物館と一体のイメージを構築します。また、公衆無線 LAN (Wi-Fi) 環境を整備し、携帯型端末を利用した情報案内や多言語化への対応も図ります。